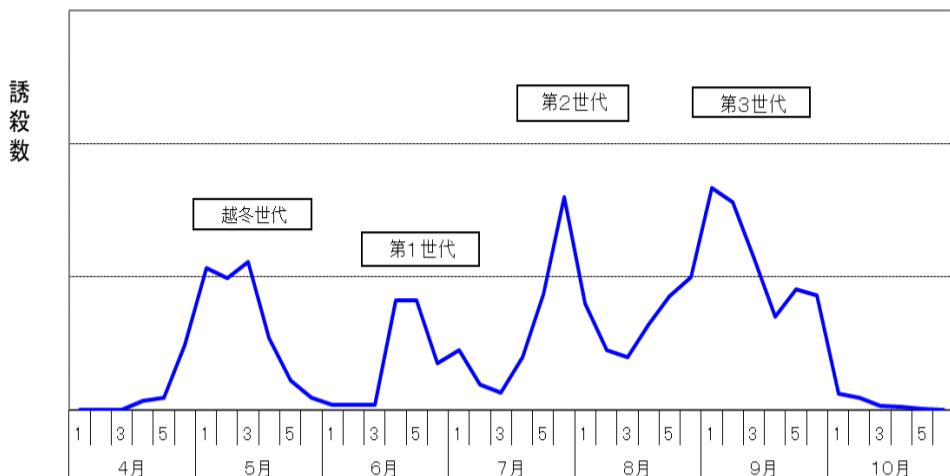


スモモヒメシンクイのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病害虫防除部

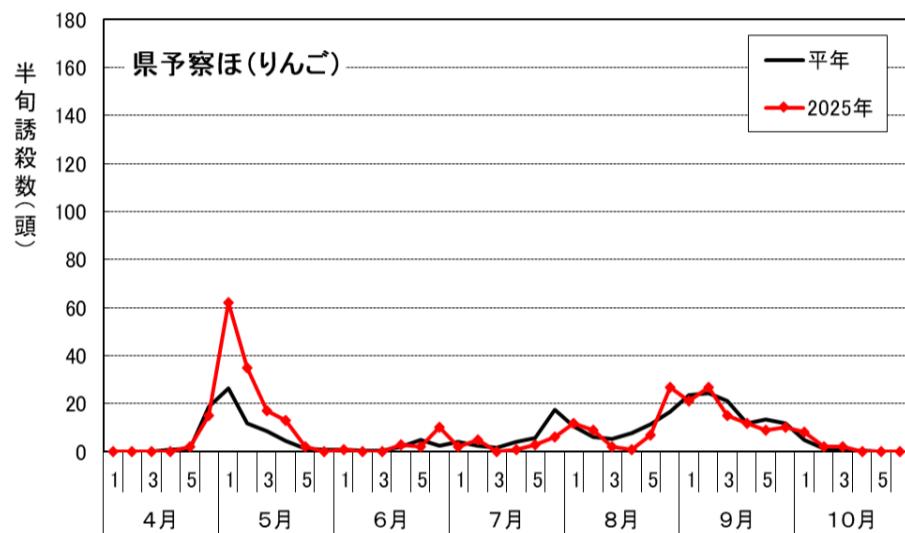
過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 県予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年3～4回発生する。
- ・越冬世代成虫は4月下旬～5月上旬、第1世代成虫は6月下旬～7月上旬、第2世代成虫は7月下旬～8月上旬、第3世代成虫は9月上旬に発生する。
- ・日本すもものは、第1世代、第2世代の卵及びふ化幼虫の防除を行う。
防除適期はそれぞれ5月上旬～6月上旬、6月下旬～7月中旬であり、10～14日間隔で防除する。
- ・りんごは、第3世代の卵及びふ化幼虫を対象に、8月中旬頃から5～7日間隔で防除する。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



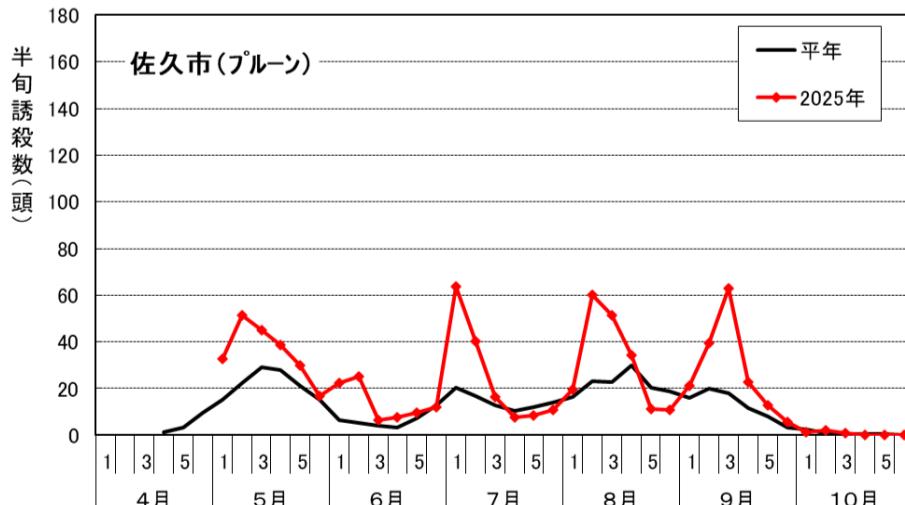
【調査地点】（標高約350m）

- ・須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・平年と同じ発生消長を示した年であった。
- ・誘殺頭数は越冬世代は平年より多かったが、以降はほぼ平年であった。

○佐久市（※佐久農業農村支援センター調査協力）



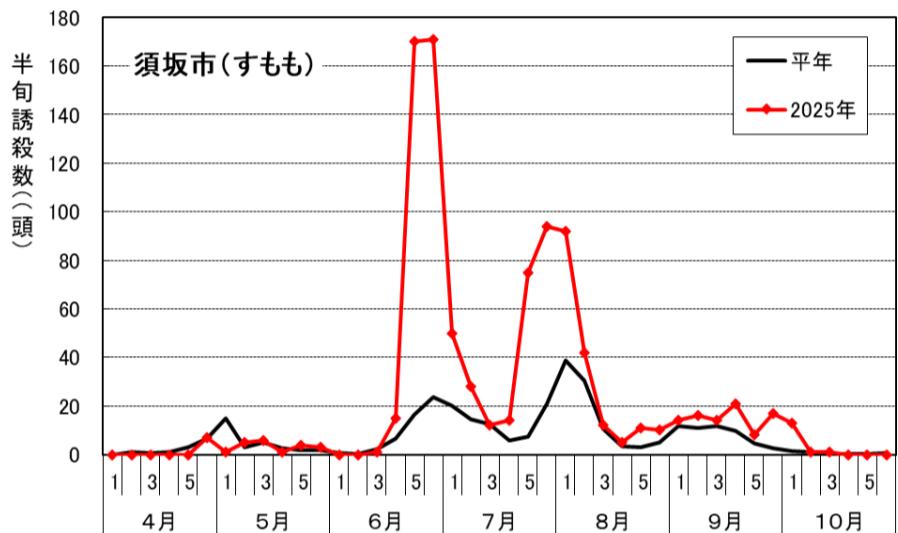
【調査地点】（標高約730m）

- ・佐久市（ブルーンほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・平年より世代と世代の間の誘殺頭数の変動がはっきりしており、各世代のピーク時と減少時の誘殺頭数が平年より大きかった。
- ・発生量自体も平年より多く、各世代ピークの誘殺頭数は平年の2～3倍であった。

○須坂市（病害虫防除部）



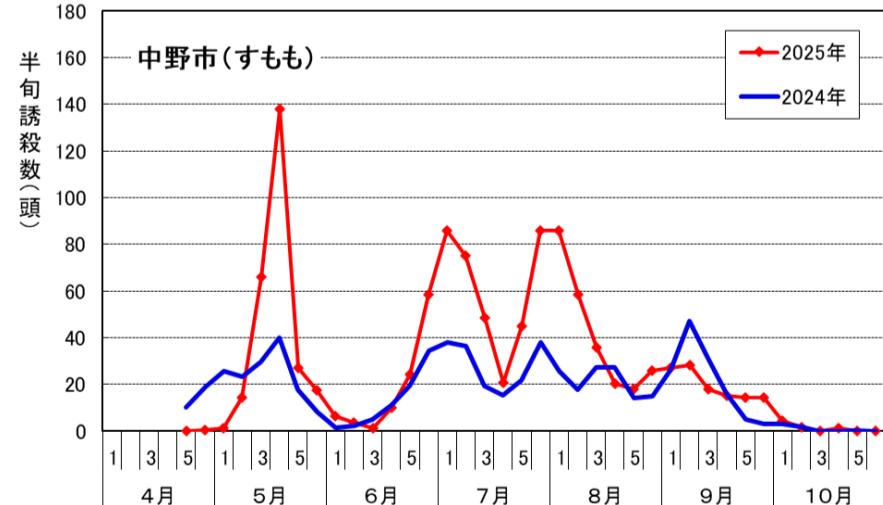
【調査地点】（標高約370m）

- ・須坂市（日本すももほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・越冬世代の誘殺は少なかったが、第1および第2世代の誘殺頭数はそれぞれ平年の8倍および2倍の数が記録された。
- ・栽培終盤の誘殺頭数も平年より多く、発生期間の延長傾向が認められた。

○中野市（※北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約350m）

- ・中野市（日本すももほ場）
- ・2024年からほ場を変更したため、平年値なし。

【コメント】

- ・世代ごとの誘殺頭数の変動がはっきりしており、かつ佐久地区と同じ様にピーク時と減少時の差が大きかった。
- ・誘殺頭数も前年より多く、発生量の多い年であった。